

テーマ：ICT 活用

対象：小学生とその家族

主催：廿日市市大野市民センター

K-② VR で防災しよう！

地域を学ぶ

地域でつながる

地域に還す

○

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習・活動内容
令和5年 1月28日(土) 10:00~12:00	市民活動センターおおの (大野支所)	①防災士の講義により、身の回りに起こる災害の状況や対処法を学習した。 ②スマートフォン搭載型VR…いくつかのシナリオの中から自宅の状況に近いものを1つ選択し、その主人公として、場所ごとの災害の予兆などから発災シーンまでを立体的に体験。一人1台使用した。 ③非常持出品袋ゲーム…水や乾パン、懐中電灯等の防災グッズのカード約100種類を並べたボードから、必要な非常持出品を考えて、袋の中身を作っていくゲーム。家族1チームで大ききの異なる3つの袋を完成させた。

講義の様子



非常持出品袋ゲーム



スマートフォン搭載型VR



ゲームの様子



対象

小学生とその家族

経費

参加費無料

連携先

- ・広島県みんなで減災推進課
- ・廿日市市大野市民センター（講師：廿日市市防災担当 三浦勇二）

2 講座設定の理由（学習の目的）

- ・居住している地域の災害について知り，防災に対する意識及び行動しようとする意欲を高める。
- ・家族単位での話し合いを通して，身の回りにある課題を解決しようとする力をつける。

3 学習目標

- ・防災士の講義により，身の回りに起こる災害の状況や対処法を学ぶ。
- ・各家庭の居住地域に近いシナリオのVRを視聴し，大雨の際の避難について考える。
- ・非常持出品袋の中身について，各家庭で話し合いながらゲーム感覚で作成する。

4 事前に必要な知識や準備物

- 主催者・・・県のみんなで減災推進課にコンタクトを取り，日程調整の後，教材の受取・返却を行う。
- 受講者・・・持参物：筆記用具，居住地区のハザードマップ

5 留意点

漫然とVRを見せたり，非常持出品袋ゲームをさせたりせず，事前に防災についての指導をしておく必要がある。

6 成果

今回使用したVRは，臨場感がありすぎて怖いということがないため，大人にとっては物足りなかったかも知れないが，小学生にはちょうど良かった。「逃げるのが少し遅かったりしただけでこんなにも危険になってしまうのか，とわかりやすく実感できた（4年生）」、「いつもは防災についてあまり気にしていなかったため，防災のことを考える機会になった。住んでいる地域・実家の周辺の想定される状況を確認できた。（保護者）」など，全員肯定的評価であり，防災意識を高めることができた。

県職員の手作りによる非常持出品袋ゲームでは，家族であれこれ話し合いながら3つのリュックサックの中身を作成することを通して，楽しみながら非常時の避難について考えさせることができた。

7 課題

参加者について，当初は7家族20名定員で募集したが，追加の声かけをしてようやく3家族7名集まっていた。小学生のいる働く世代の方々に防災に対する関心をどう高めるかが課題として残った。

8 今後に向けて

学校のような場で一斉に同じシナリオを見せたり非常持出品を検討させたりするより，今回のような家族単位での実施の方が実践力を付けることができると考える。市民センターとして今後もそのような場を設けていきたい。